

第13回青の國若山牧水短歌大会 入賞作品

<青の國短歌大賞>

今此処に居ることも多分旅だろう宇宙の隙間に卵を落とす

くわばら たまよ
桑原 環世

群馬県沼田市

<一般の部 自由題>

○最優秀賞

恋なんて説かれなくても解ってるそういう君は隠り沼の蝌蚪

しむら のりあき
志村 紀昭

愛知県名古屋市

○優秀賞

マトリョーシカみたいに僕の中にある小さな僕をゆっくり隠す
子の爪をはじめて抓みしあの時のあの日溜りのやうなオムレツ

ほり まさひろ
堀 将大
かい たかこ
甲斐 隆子

岡山県倉敷市
宮崎県日向市

○優良賞

おみやげのガラスのコップ点々とペルーの風か小さな気泡
明らかにその母と子は向う側なのに寄せ来る深い哀しみ
「弱いねえ」「それくらいで？」と蹴られても私は私を放さなかった

にしばやし みさこ
西林 美沙子
まつき こうじ
松木 浩二
いのうえ ひでこ
井上 秀子

東京都武蔵野市
香川県高松市
東京都練馬区

○佳作

老いし母うまかと言えば飽きるほど弟買い来るかぼちゃコロッケ
ファインダー覗く君の目に映る桜がいちばん綺麗で
ひ孫来て怪獣の絵の雨がさをくるくる廻す言葉のかはりに
入学の式後に消した黒板の字は窓から海へと向かう
さみしさの粒が喉までこみあげてわたしおくらの気もちがわかる
自生する邪魔者だった長芋のむかごで炊いたふんわりご飯
三つ星を虫にもらった菜園のやぶれ白菜ちゃんこに浸かる
亡き兄のコップの中は割れそうな音が聞こえる夕焼けの色
たましいを震わせし腹守りつつ蝉は見えざる柩に眠る

まつした ひろこ
松下 弘子
やまぐち れい
山口 麗
おの とよこ
小野 豊子
ならざき みほこ
檜崎 美穂子
ふじた の
藤田 ゆき乃
うすい けいこ
臼井 慶子
もりわき ゆりこ
森脇 由利子
やすだ けんじ
安田 健治
なかむら ひでとし
中村 英俊

鹿児島県伊佐市
鹿児島県始良市
宮崎県延岡市
佐賀県唐津市
岩手県陸前高田市
神奈川県横浜市
福岡県糸島市
北海道千歳市
北海道伊達市

柿の木は身の丈ほどを育てむと地にほろほろと幼実落とす
 番傘をバツと開くとバンボロロ、雨のシンフォニーいきなりフォルテ
 にらむ先落ちたアイスに群れる蟻にまだ教えない二個目買うこと
 胸奥の歯車の錆剥ぐごとく再び手にとるサン＝テグジュペリ
 ミャンマー人の女男めおに子の生れて名は〈夏〉この国の小ちさき部屋さちに幸来よ
 三角も丸もハートのおにぎりも魔法のように握る母の手
 クレヨンに白があるごとく幸せも気づかぬうちに暮らしにひそむ
 菜の花の pasta くらいの明るさで春の雨降る吉祥寺行く
 江戸風鈴、枝豆、ビール、夏の空 入道雲とハグしてみたい
 温かいきみの背中に手を置いてしばらく心の充電をする
 足はまだ京都以南に赴かず小林とふ地一度踏みたし

あおやま 青山	よしこ 良子	宮崎県宮崎市
かたかべ 片伯部	りつこ りつ子	宮崎県延岡市
とりもと 鳥元	ゆうこ 優子	愛知県豊川市
おおつか 大塚	あきこ 晶香	大分県大分市
とくなが 徳永	たえこ 多恵子	東京都品川区
まえぞの 前園	ゆうこ 優子	大阪府大阪市
きしもと 岸本	えみ 恵美	大分県大分市
かさまき 笠巻	むつみ 睦	埼玉県草加市
こむろ 小室	ふみ 史	群馬県みなかみ町
こいけ 小池	ひろみ ひろみ	京都府京都市
こばやし 小林	ひろき 大輝	東京都大田区

<一般の部 題詠「道」>

○最優秀賞

本校の式に参加の道すがら生徒と櫛の芽採りつつ行きけり

いわきり 岩切	たけのり 軍典	宮崎県宮崎市
------------	------------	--------

○優秀賞

夕暮れの昏くなりゆく畦道で祖父との歩幅合わせてみたり
 夕暮れのせまる山道いにしへの旅人ふいに我を追ひこす

のざき 野崎	せいこ 精子	兵庫県宝塚市
はらだ 原田	しん 伸	福井県永平寺町

○優良賞

ひと筋の道を持みて山ふかく暮らす村ありけふ春祭り
 瀬戸内の鮮魚が並ぶ道の駅割引シールを夫と待つ午後
 てきとうに野原を歩いてきたただどこにも道はなかった 孫よ

まにわ 眞庭	よしお 義夫	群馬県みなかみ町
としなが 利長	さだお さだお	山口県光市
おおが 大賀	やすお 康男	愛媛県新居浜市

○佳作

バス停はまだまだ先の日照り道人の声なくただ雲雀鳴く
 松根油を採りたる松の傷あとを撫でて通りき故郷の道
 駅前のかくれ場所めくコーヒー店隣の人も道を見て飲む

くろかわ 黒川	しゅうへい 周平	栃木県那須町
ごとう 後藤	のぶこ 信子	大分県九重町
いだ 井田	あさみ あさみ	滋賀県東近江市

駅前の歩道の上で雨に濡れマスク次々踏まるる三月
 芋植ゑる背をスレスレに飛びくれる春のつばめの道草あそび
 隣国へ抜ける人道回廊の夜空に天の川は輝く
 木道を「はるかな尾瀬」とハモリつつ赤いリュックの少女ら過ぎ行く
 いくつまで高速道路走れるか昨日も今日も病む妻と居る
 立ち込めし山霧やがて薄れきて道あらはるる思はぬ方に
 つーんつんと飛ぶ斑猫の後につき観音堂への道を伴にす
 新緑のかくす流れの音のするほうへ方へと小道をくだる
 月光を蟹が静かに吸っている動くものなき道路の真中
 耕耘機の繁く通った農道を今は散歩の人のみ歩く
 梅雨晴れの野道に乱舞しろき蝶いずこで雨をしのぎたりしか
 祇王寺の近道ききて急ぎゆく草の実はぜる小春の堤
 見慣れない茸が並ぶ道の駅パスタにどうぞとポップが誘う
 子の町はいま雨なれどグーグルでたどる道筋ひろびろと晴
 ぬかるみが砂利へ舗装へ整うもその道越えて若きは町へ
 見下ろせば光る車が流れゆく都会の道路は川に似ている
 夕焼けを見にゆくという隣人と岐れて下るポストへの道

田中 司郎
 畠山 昭二
 志村 紀昭
 高村 富士郎
 角田 好弘
 槇島 茂
 小林 定木
 丸野 幸子
 大塚 百々子
 松本 進
 植村 東紀子
 麻生 みち子
 太田 省三
 市川 登美栄
 矢本 郁郎
 阿久津 惠美
 船岡 房公

鹿児島県鹿児島市
 宮城県仙台市
 愛知県名古屋市
 静岡県富士宮市
 山梨県笛吹市
 埼玉県所沢市
 福岡県福岡市
 大阪府堺市
 宮崎県宮崎市
 山口県光市
 宮崎県都城市
 京都府京都市
 大阪府池田市
 福岡県福岡市
 北海道札幌市
 東京都大田区
 滋賀県大津市

<小学生の部>

○最優秀賞

帰り道木の葉ひらひら一まいがわたしのぼうしに静かにすわる

川村 栞愛

日向市立日知屋東小学校 4年

○優秀賞

暑き夏ひたいにあせを光らせて走るよどこかけもののごとし
 キュウリをねプチンプチンと取っていくたくさんちぎってコンテナいっぱい

森下 三世
 辻本 爽祐

日向市立日知屋小学校 4年
 日向市立寺迫小学校 5年

○優良賞

えんがわでひもにつながるほしがきが風にゆられてぶつかり合いだ

ながとも 凱紳

川南町立山本小学校 4年

温かいその手でにぎってくれた祖母今は冷たいその手をにぎる
海へ行き海が何かにどなってるごみを捨てられおこってる海

はしぐち ま ひろ
橋口 眞優
かつき りょうが
香月 亮駕

日向市立日知屋小学校 6年
日向市立財光寺南小学校 6年

○佳作

日曜日ねことわたしでこたつに入りねこはねていてわたしはゲーム
オレンジのホオズキを売る軽トラ市ハートもよのカーテンみたい
ミニトマトおとなりさんにおすそわけみんなえがおでうれしくなるね
魚つりテレビの人はつっていたぼくのえさには何がくるかな
スイカわり一回でわってうれしいな自分がわってとてもおいしい
かみなりがゴロゴロなってねむれないとなりの妹だきしめてみる
森の中一人さまよう何だろう子じかが一びき楽しそうだな
フラダンスはだしの私すなをけるアチチのポーズ海もキラキラ
プールの中けのびをすると水色のプルプルゼリーみたいな水中
つゆの時期雨がぼたぼた落ちてくるみんなであじさい新しいかさ
ミンミンとせみがなきますなつがきたおしっこするよはねをひろげて
東郷の緑はおちつく何かちがうここはまるで自宅のようだ
じいちゃんも夏でも夜はおおぶとん冬になったらごくあつぶとん
抜けがらを置いていくなよアブラゼミぼくも水とう置いてけぼりだ
にぎやかにせみなくそばを弟があみもつすがたたのしい夏だ
公園に虫とりをしに行ったらけどせみにおしっこかけられちゃった
うれしいなきょうのべんとうきれいだなやさいのべんとうおばあちゃんのあじ
たんけんわくわくするねどこいくのももちろんここだだいすきとしょしつ
カブト虫いっぱいってかわいがるゼリーの音で目がさめている
しょうらいにいろんな夢をもったっていいじゃないかよ自分の道だ

わたなべ れい こ
渡邊 怜心
たけ ゆづき
嶽 悠月
えんどう どう ま
遠藤 翔大
ふくだ ゆいと
福田 結仁
みぞぐち な な
溝口 結菜
すぎたに ち ほ り
杉谷 千穂里
とうま つばき
藤間 翼
ないとう り こ
内藤 璃子
くろだ と わ
黒田 斗翔
みつまる ゆう き
満丸 祐紀
くろき こころ
黒木 心結
よしだ ひかる
吉田 輝
ますだ あいな
増田 あいな
ながい よし き
永井 克樹
かい りゅうせい
甲斐 瑠晟
はやしだ あつ と
林田 篤人
やまの い あい な
山ノ井 愛月
しまだ こうぞう
嶋田 晃三
ほんだ あお と
本田 碧心
くろだ しょうま
黒田 翔真

川南町立山本小学校 4年
川南町立山本小学校 4年
日向市立美々津小学校 2年
日向市立美々津小学校 2年
日向市立美々津小学校 3年
日向市立美々津小学校 3年
日向市立美々津小学校 4年
日向市立美々津小学校 4年
日向市立坪谷小学校 2年
日向市立坪谷小学校 4年
日向市立日知屋小学校 1年
日向市立日知屋小学校 6年
延岡市立旭小学校 4年
延岡市立旭小学校 4年
日向市立日知屋東小学校 6年
日向市立日知屋東小学校 6年
日向市立富高小学校 1年
日向市立富高小学校 1年
日向市立富高小学校 3年
日向市立富高小学校 4年

<中学生の部>

○最優秀賞

夕立が黄昏時に現れて蟹の甲羅を濡らして消える

おおつか ゆうと
大塚 雄斗

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 3年

○優秀賞

生きる意味ここにいる意味分からない感情なんて全部投げたい
びわの実にオレンジの袋かぶす祖父脚立かついで百も二百も

たなか りおん
田中 玲音
にしだ こと
西田 琴

宮崎日本大学中学校 3年
小林市立紙屋中学校 3年

○優良賞

僕が見る世界の色はモノクロで君があらわれカラフルになる
スイカって嫌いなんだよね種ありで僕は好きだよスイカも君も
迎え盆花火の灯道するべ菓子をお供えて妹を待つ

うめはら なつき
梅原 菜月
ふくまる あかり
くろかわ めい
黒川 芽生

宮崎市立生目中学校 3年
都城市立五十市中学校 2年
鵬翔中学校 3年

○佳作

秋の空空き教室に僕と君窓辺の夕日に照らされる頬
スイカ割り海辺でやると楽しいな小五の記憶中二で更新
雲見るとふわふわ丸くパンみたいおなかがすいてパンをひとくち
帰り道あの夕焼けにあたたかく包みこまれる私のこころ
明日言う明日言おうが多すぎてタイミング逃し今日言う好きだ
猫たちよ可愛いのだが知ってるかここは君たちの家ではないと
海の青草木の青と空の青青はこんなに美しいのに
夏祭り屋台や花火が光る中私の目には君が輝く
レイアップみんなは普通に決めるのになんで僕のは入らないのか
夏の夜暗闇照らすおすぼたるそこにしかないれんあいばなし
真っ青な空を見上げる向日葵は人の心を快晴にする
友達と別れ一人の帰り道鼻唄うたい立ちこぎをする
友人のWデート尾行する両手でリンゴ飴を掲げて
じいちゃんへ私が作ったその馬は短い足で走っているかな
マンゴーやチキン南蛮宮崎はおいしいもんであふれちょっちゃが

くろき み ゆ
黒木 心結
かわの み う
河野 美海
おおした こ ほる
大下 心晴
にゆうた さ や
入田 彩椰
みずもと まあや
水元 舞彩
しむいし すずか
下石 涼楓
なかしま たけた ろう
中島 竹太郎
たのうえ かなえ
田ノ上 佳苗
みうら りょうた ろう
三浦 稜太郎
たかまつ ゆ な
高松 夢菜
たまき み お
田牧 実央
きもと きょうすけ
木許 恭佑
とよかわ あん な
豊川 杏奈
くろき み さと
黒木 美里
さかもと めい
坂元 萌結

川南町立国光原中学校 2年
川南町立国光原中学校 2年
川南町立国光原中学校 2年
宮崎市立生目中学校 2年
宮崎市立生目中学校 3年
宮崎市立生目中学校 3年
宮崎市立生目中学校 3年
宮崎市立生目中学校 3年
宮崎日本大学中学校 1年
宮崎日本大学中学校 2年
宮崎日本大学中学校 2年
宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 2年
宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 3年
日向市立日向中学校 2年
都城市立五十市中学校 2年

夏休みたまりにたまった宿題を川に流していざ旅に行かん
「よかにせどん！」どんな意味かとたずねると喜色满面答えた祖母よ
お風呂場は声がよく響きよく歌う窓が開いてて恥ずかしくなる
潮の香にさそわれ外へ出てみれば待っていたよと笑いかける海
午前四時胡瓜畑の祖父の指胡瓜のアクに緑に染まる

うえのまち こうた 上ノ町 鴻太	鵬翔中学校	2年
ありやま こうすけ 有山 昂佑	鵬翔中学校	3年
まさき とうま 正木 斗馬	鵬翔中学校	3年
かい ことこ 甲斐 琴子	鵬翔中学校	3年
ひろしま ほのか 広島 歩華	小林市立紙屋中学校	3年

<高校生部>

○最優秀賞

雨の音家族の寝息響く今このひとときを誰も知らない

きたの ゆうな 北野 結菜	宮崎県立小林高等学校	2年
------------------	------------	----

○優秀賞

夕暮れの向日葵畑太陽は開聞岳へ隠れていくよ
硬球の快音響くグラウンドにつられて打った電卓のおと

おがわ みう 小川 美羽	宮崎県立宮崎商業高等学校	1年
たなか ゆうか 田中 優加	宮崎県立宮崎商業高等学校	2年

○優良賞

当たり前当たり前では無くなると改めて問う当たり前とは
大晦日家族みんなで年を越す数分前はもう去年と言う
幼い日虫捕り名人の僕だった今の自分は引きこもっている

かわの けいゆう 河野 継雄	宮崎県立宮崎商業高等学校	1年
しんがき ゆうと 新垣 悠斗	宮崎県立宮崎商業高等学校	1年
そのだ たつき 園田 樹己	宮崎県立日向工業高等学校	3年

○佳作

授業中突然あいつはやってくる睡魔という名の最強の敵
春が来てメダカの数が増えていて家族みんなでメダカの話
炎天下暑い日差しの実習畑糖度管理に闘志を燃やす
梅雨の朝道に連なる車たち歩きのわたしまたごぼう抜き
高校生部活に勉強忙しい猫の手借りたい猫いないけど
呼ばれても聞こえてないふりしてました少しでも多く声が聞きたくて
十八点それでも手付けぬ数学は放課後君に教えてもらうため
映画館わざわざ遠くに行ったけどなぜかその場に友達もいた
たまにはさいいいんじゃないの雨の日もだって泣いてもばれないじゃない

さくもと あこ 作本 愛心	宮崎県立日南高等学校	3年
かどた ひろき 門田 大輝	宮崎県立都城農業高等学校	2年
すだて かずき 巣立 和暉	宮崎県立都城農業高等学校	2年
やました ゆきむね 山下 雪宗	宮崎県立宮崎商業高等学校	1年
みやもと そら 宮本 蒼空	宮崎県立宮崎商業高等学校	2年
ひだか あいら 日高 愛蘭	宮崎県立宮崎商業高等学校	3年
たなか ちひろ 田中 千陽	宮崎県立小林高等学校	2年
まがた しゅんや 真方 俊也	宮崎県立小林高等学校	2年
みやぞの ゆか 宮園 由華	宮崎県立小林高等学校	2年

知っているけれどわざわざラインする明日の授業何があるっけ
 君想い悩みに悩む午前2時これが恋だと気づいてしまう
 えんぴつを持つ手走らず作文に手のかげおとす午後3時半
 雨上がり舗道をミミズがによろによろと渡りきれよと声かける僕
 なつかしい風鈴の音夏の風祖母の隣で寝てた放課後
 得意げに君に示した解答はどういうわけか間違っていた
 体育祭あなたが奪ったあの帽子奪ったものは帽子の他にも
 まだ暗い母が出ていくドアの音有り難み知る月曜の朝
 目が覚めて香り漂う味噌汁の一口飲んで落ち着く心
 バスの席あえて空けとく右隣り君が座るかドキドキしてる
 「ただいま」と言うと「おかえり」待っている今は無き声ふとよみがえる

かじさ たける
 加治佐 尊
 くらさわ かこ
 倉澤 佳子
 くるぎ ともはる
 黒木 朝晴
 ながとも りゅうき
 長友 颯輝
 いまだ こあ
 今田 心愛
 くるぎ りく
 黒木 陸玖
 かねまる さな
 金丸 紗奈
 みふじ そういちろう
 三藤 聡一郎
 はしぐち みう
 橋口 実有
 むらこそ そうき
 村社 颯樹
 くるぎ なな
 黒木 奈菜

宮崎県立小林高等学校 2年
 尚学館高等部 2年
 宮崎県立日向工業高等学校 3年
 宮崎県立日向工業高等学校 3年
 宮崎県立延岡商業高等学校 2年
 宮崎県立日向高等学校 2年
 宮崎県立日向高等学校 2年
 宮崎県立宮崎北高等学校 1年
 宮崎県立宮崎北高等学校 1年
 宮崎県立宮崎北高等学校 2年
 宮崎県立富島高等学校 3年